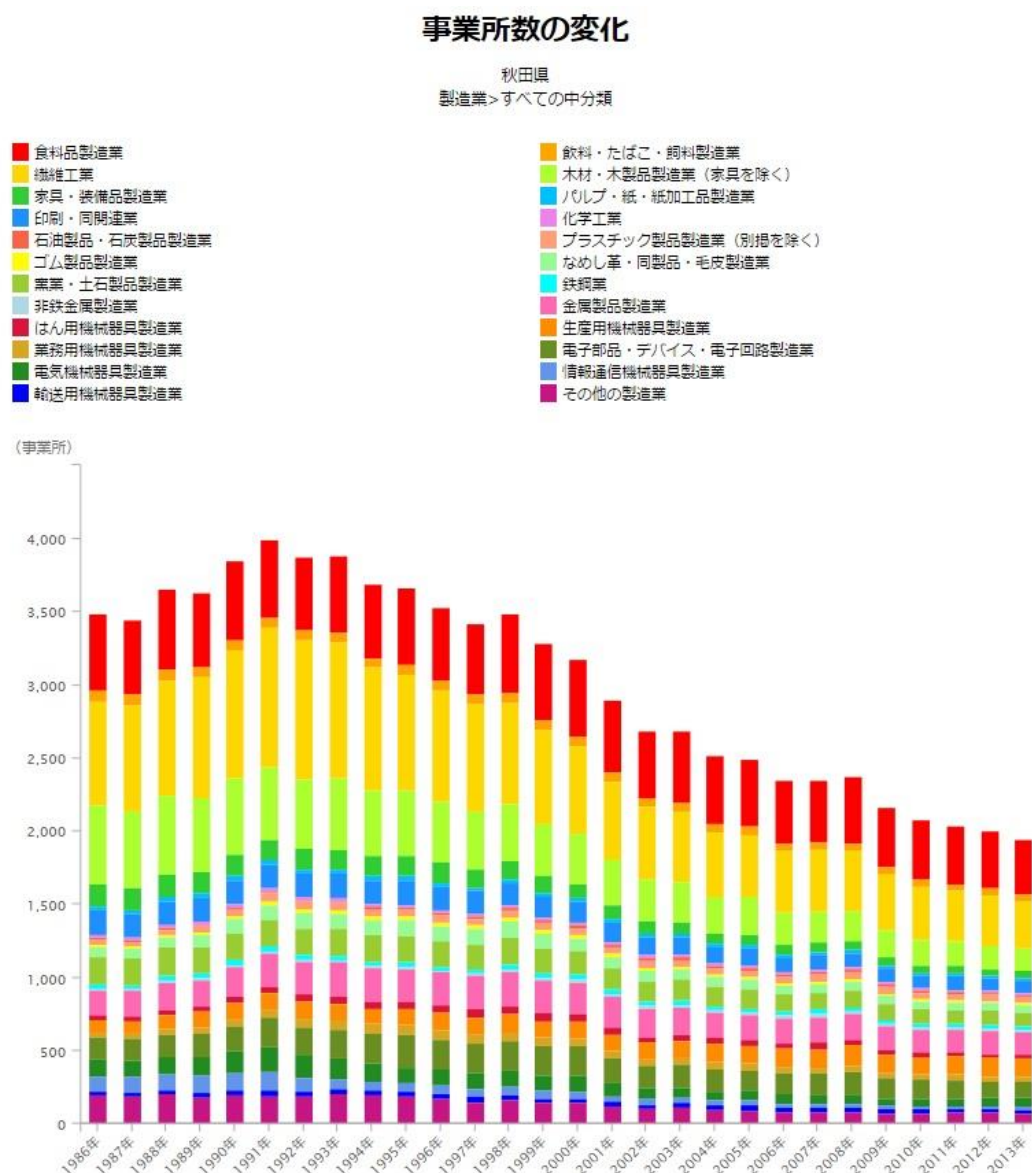


2 製造業

本県の製造業の事業所数は、1991年の3,991事業所をピークに、2013年には1,940事業所まで減少している。なかでも、繊維工業と木材・木製品製造業の減少が著しい。

2013年の事業所数の構成を見ると、食品製造業が最も多くなっており、2位に繊維工業、3位に木材・木製品製造業と続く。

【図表 3 5】 事業所数と業種別割合の推移



「産業構造マップ／製造業の構造／産業構造変化を分析／事業所数」

2013年の製造品出荷額等、従業者数では、電子部品・デバイス・電子回路製造業が前述する3業種を大きく上回っており、本県製造業の中核に位置付けられる。

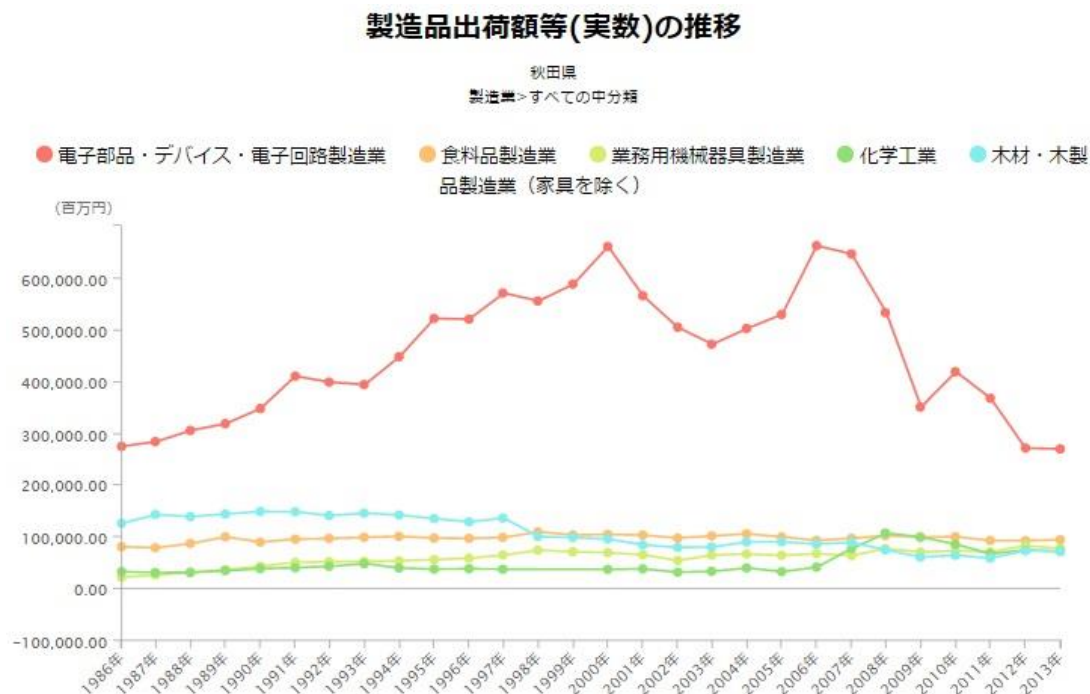
本県の製造品出荷額等の業種別シェアを全国と比べてみると、

- ① 電子部品・デバイス・電子回路製造業のシェアが高いこと
(秋田県：27.1% 全国：4.5%)
- ② 木材・木製品製造業のシェアが高いこと
(秋田県：8.4% 全国：0.7%)
- ③ 全国ではシェアトップの輸送機械のシェアが極めて低いこと
(秋田県：3.0% 全国：15.5%)
- ④ 鉄鋼、石油製品など基礎素材型業種のシェアが低いこと
(鉄鋼・秋田県：2.2% 全国：5.3%、石油・秋田県：0.4% 全国：3.9%)

などが、その主な特徴となっている。

市町村別に見ると、出荷額の高い順に秋田市、にかほ市、横手市、由利本荘市となっており、この4市で出荷額の5割以上を占めている。

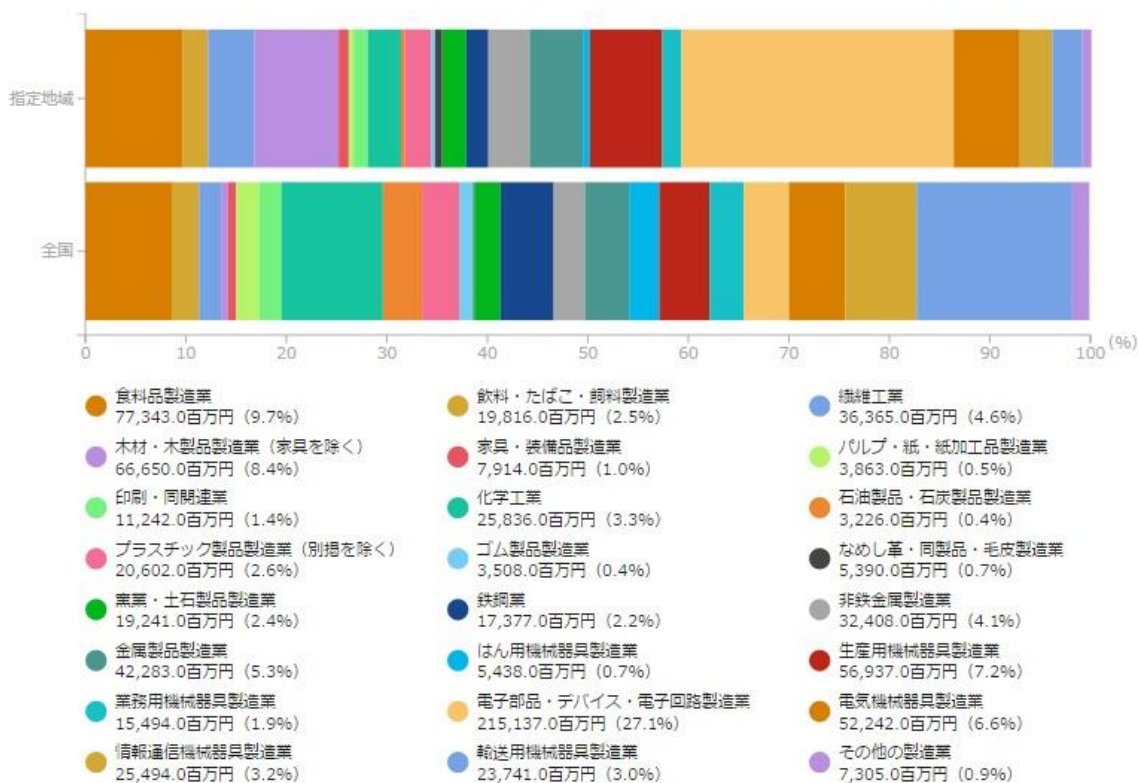
【図表36】製造品出荷額等の推移（県内上位5業種）



「産業構造マップ／製造業の構造／推移を見る／製造品出荷額等／上位5業種」

【図表 3 7】 売上高の産業中分類別割合と、全国との比較

製造業



「産業構造マップ／全産業の構図／売上高／横棒グラフで割合を見る／製造業」

労働生産性から本県の製造業を見ると、長期的に見れば上昇基調を維持しているものの、全国平均に対し5割から6割の水準で推移しており、2013年では762万円/人となっている。これは、本県企業の多くが労働集約的な加工組立型の企業であることも要因の一つであると考えられる。

経済センサスにより生産性に関する指標を見ると、資本装備率(従業者1人当たり)、設備投資効率、有形固定資産回転率のいずれも全国平均を下回っている。一方、人件費に関する指標では労働分配率と人件費率が全国を大きく上回っているのに対し、1人当たり人件費は逆に大きく下回っている。

これは、本県が鉄鋼や石油製品など生産性の高い装置産業が少ないことに加え、加工組立型の産業でも付加価値の高い企画・開発から最終製品まで一貫して組み立てる企業の集積が少ない等の構造的な要因がある。

【図表38】秋田県製造業の生産性に関連する各指標

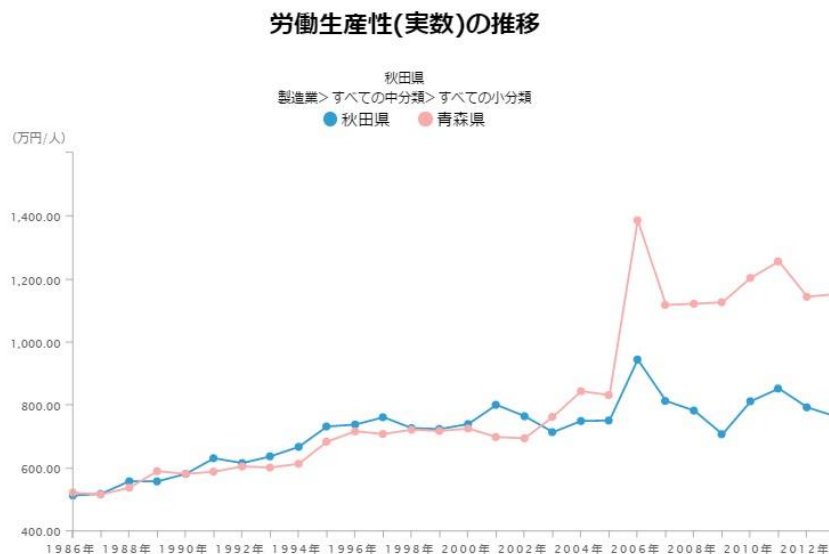
(単位：千円/1人)

	付加価値 生産性	売上高 付加価値率	1人当たり 売上高	資本装備率	設備投資効率
全国	13,955	30.4%	45,856	12,216	114.2%
秋田県	8,515	37.2%	22,898	7,869	108.2%
	有形固定 資産回転率	労働分配率	人件費率	1人当たり 人件費	
全国	375.4%	34.5%	10.5%	4,820	
秋田県	291.1%	40.1%	14.9%	3,410	

「平成24年経済センサス」より作成

- ※ 売上高付加価値率＝付加価値額を売上高で除した指標。自社加工度がどれだけ高いかを表す。
- 資本装備率＝総資本を労働力で除した指標。これが高いほど資本集約的となる。
- 設備投資効率＝設備（有形固定資産）を用いてどれだけ付加価値を創出できるかを見る指標。
- 有形固定資産回転率＝売上高を有形固定資産で除した指標。設備が活用されている度合いを示す。
- 労働分配率＝人件費を付加価値額で除した指標。
- 人件費率＝人件費を売上高で除した指標。

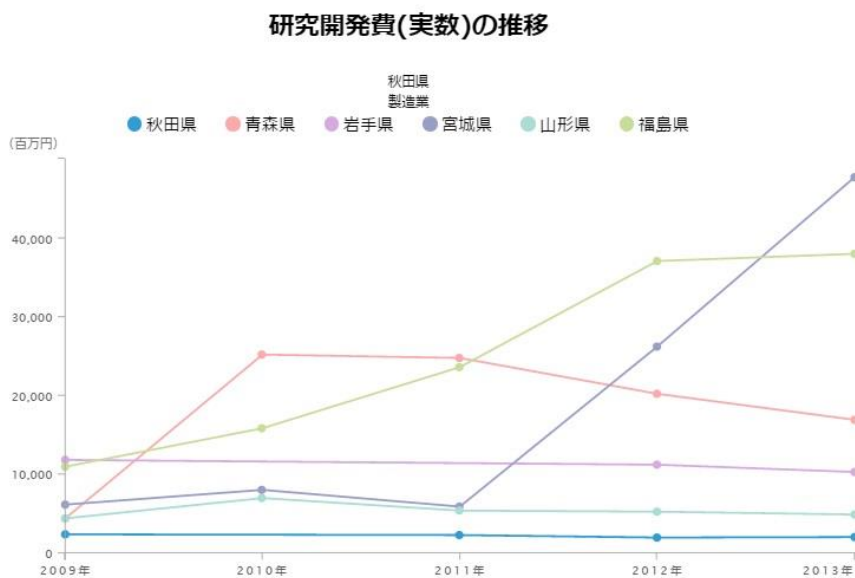
【図表 3 9】労働生産性（製造業）の推移



「産業構造マップ／製造業の比較／時系列グラフで分析／労働生産性」

製品の高付加価値化には、企業の研究開発が当然必要となってくる。研究開発費について東北6県で比較してみると、本県は過年度を通して最も低くなっている。

【図表 4 0】研究開発費（製造業）の推移と東北6県比較



「企業活動マップ／研究開発費の比較／実数で表示する／製造業／時系列変化を分析」

青森県は、製造業全体の労働生産性が東北6県で最も高くなっている。労働生産性と設備投資額の関係を、本県と青森県との比較から検証する。

全24業種合計の設備投資額では、2008年は本県が青森県より上回っているものの、2009年以降は電子部品・デバイス・電子回路製造業の設備投資額の大幅な落ち込みにより減少し、2012年には青森県の半分程度となっている。

青森県では生産性の高い装置産業の一つである非鉄金属製造業への設備投資額が最も大きい。労働生産性は7,759万円/人と高く、青森県の製造業全体の労働生産性を押し上げる要因となっている。

【図表4-1】製造業産業中分類別の設備投資額（2012年における設備投資額の多い順）

設備投資額（2012年の上位5業種）		（単位：億円）				
		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
秋田県	電子部品・デバイス・電子回路製造業	590.48	138.30	151.92	129.29	111.42
	化学工業	87.67	43.53	34.28	49.73	68.52
	非鉄金属製造業	97.51	63.98	24.59	30.40	40.63
	食料品製造業	10.86	7.30	15.33	12.79	35.26
	業務用機械器具製造業	44.56	56.68	35.07	6.17	31.28
	全24業種合計	1,089.83	455.19	389.62	330.03	414.60
青森県	非鉄金属製造業	575.47	552.17	650.34	611.65	355.71
	パルプ・紙・紙加工品製造業	52.49	38.61	17.82	160.41	110.25
	鉄鋼業	111.25	92.93	119.41	97.71	87.73
	食料品製造業	39.83	81.48	39.70	48.55	76.37
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	63.87	41.87	28.47	39.31	45.73
	全24業種合計	1,014.46	909.78	984.89	1,059.06	815.35

「産業構造マップ／稼ぐ力分析／設備投資を分析（製造業）」のデータを用いて作成

【図表4-2】労働生産性と設備投資額

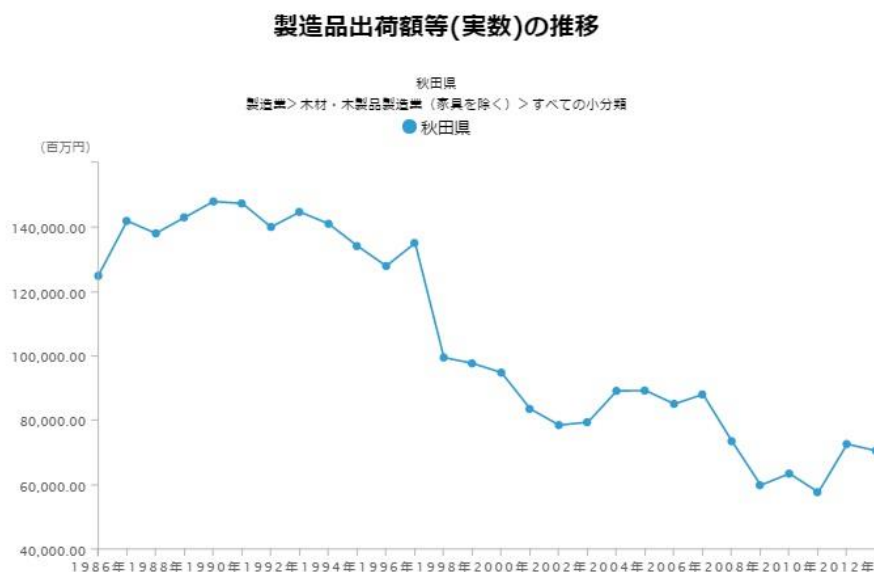
2012年	製造業全体		電子部品・デバイス・電子回路		非鉄金属	
	労働生産性 (万円/人)	設備投資額 (億円)	労働生産性 (万円/人)	設備投資額 (億円)	労働生産性 (万円/人)	設備投資額 (億円)
青森県	1,142.35	815.35	491.97	45.73	7,759.38	355.71
秋田県	791.07	414.60	1,056.77	111.42	1,507.65	40.63
岩手県	810.41	735.70	629.17	69.67	720.63	3.02
山形県	847.45	690.56	1,082.43	125.25	1,157.63	14.89
宮城県	1,005.33	1,403.53	1,234.60	148.13	1,069.55	16.10
福島県	1,072.59	1,733.78	897.90	144.94	1,259.75	74.63

「産業構造マップ／稼ぐ力分析」のデータを用いて作成

(1) 木材・木製品製造業

「産業構造マップ・製造業の構造」から本県の木材・木製品製造業を見ると、2013年の製造品出荷額等は約704億円と全体の6.4%を占め、24産業中第5位の規模である。事業所数は156事業所、従業者数は3,008人で、それぞれシェアが8.0%、4.9%となっている。過年度の出荷額の推移を見ると1990年をピークに減少傾向にある。同様に事業所数、従業者数も減少しており、規模も縮小傾向にある。

【図表4-3】木材・木製品製造業の製造品出荷額等の推移



「産業構造マップ／製造業の構造／製造品出荷額等で表示する／推移を見る／木材・木製品製造業」

市町村別に見ると、製造品出荷額等は大規模な合板工場が立地する秋田市が約258億円と最も多く、次いで能代市の約132億円となっている。能代市は古くから木材関連産業が集積しており、事業所数は36事業所と県内1位となっている。

【図表4-4】木材・木製品製造業の市町村別の状況（事業所数の多い順）

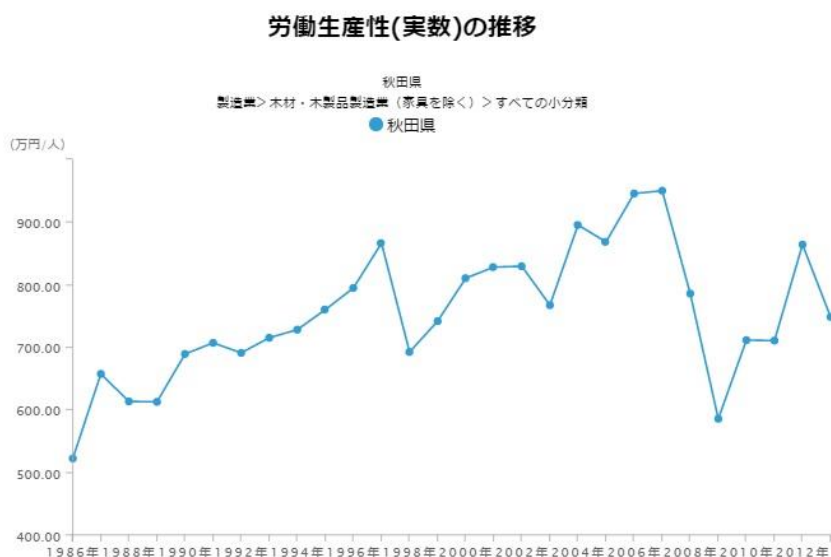
集計年・期間	市区町村名	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (百万円)	付加価値額 (百万円)	労働生産性 (万円/人)
2013	能代市	36	656	13,280.24	3,389.40	516.68
2013	大館市	20	403	5,868.05	1,869.83	463.98
2013	秋田市	18	671	25,808.19	9,274.17	1,382.14
2013	北秋田市	14	221	4,584.65	1,301.80	589.05
2013	仙北市	14	255	2,689.23	930.10	364.75
2013	大仙市	13	90	893.67	377.42	419.36
2013	由利本荘市	6	137	2,122.39	726.69	530.43
2013	五城目町	5	188	6,248.93	1,732.97	921.79
2013	横手市	5	37	341.75	177.37	479.38
2013	男鹿市	4	144	6,355.10	1,804.62	1,253.21

「産業構造マップ／製造業の構造」のデータを用いて作成

労働生産性の推移を見ると、産業規模の縮小が進む中、2007年までは上昇傾向にあった。これは、1990年以降、住宅構造材への集成材の使用が急速に進む中、県内業者が全国に先行して構造用集成材の量産体制を構築してきたことによる。このため、2007年当時は本県の集成材出荷額は全国1位となっていた。

2013年の労働生産性は、747万円/人と全国25位となっている。

【図表45】木材・木製品製造業の労働生産性の推移



「産業構造マップ/製造業の構造/労働生産性で表示する/推移を見る/木材・木製品製造業」

本県の木材・木製品製造業の製造品出荷額は、産業細分類別に見ると「一般製材」、「合板」、「集成材」の3品目で約8割を占める。内訳は合板が約45%と最も多く、次いで集成材が約20%、一般製材が約15%となっている。

本県は、一部を除くと零細・小規模工場が多く、大ロットの受注への対応が難しく、生産効率も低いことなどの課題を克服する必要がある。

産業全体が新たな成長軌道に乗るためには、秋田県産材利用を前面に打ち出すなどの差別化を図り、競争力を一層高めることが必要になる。

【図表46】木材・木製品製造業の産業細分類別の製造品出荷額の構成比(2014年)

	製造品出荷額(千円)	割合
合板	3,254,020	44.1%
集製材	1,500,457	20.3%
一般製材	1,113,121	15.1%
その他	1,328,904	18.0%
(秘匿分計)	176,773	2.4%
合計	7,373,275	100%

「平成26年秋田県の工業 統計表」より作成

(2) 食料品製造業

「産業構造マップ・製造業の構図」から本県の食料品製造業を見ると、製造品出荷額等は、約 932 億円と全体の 8.4% を占め、24 産業中第 2 位の規模である。事業所数は 370 事業所、従業者数は 7,758 人で、それぞれシェアは 19.0%、12.6% となっている。市町村別に見ると、製造品出荷額等は秋田市が最も多く、次いで大館市、鹿角市となっている。

過年度の推移を見ると、1998 年の約 1,084 億円をピークに、2013 年には約 931 億円となっている。製造業の中でのシェアは、直近 5 年において 8% 前後で推移しており大きな変化はない。

【図表 4 7】食料品製造業の製造品出荷額等の推移



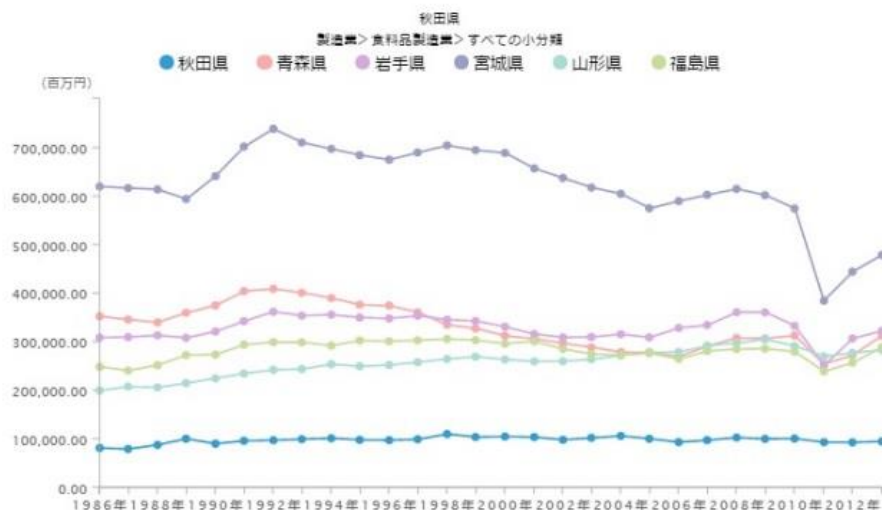
「産業構造マップ／製造業の構造／製造品出荷額等で表示する／推移を見る／食料品製造業」

「産業構造マップ・製造品出荷額等」及び「産業構造マップ・製造業の比較」を見ると、製造品出荷額等は全国で 44 位と低位にあり、東北 6 県の中で最下位、5 位の福島県と比較しても約 3 分の 1 と差が開いている。

事業所数は東北で最も少ないものの、出荷額や従業者数と比べその差は小さく、小規模事業所が多いことを示している。

【図表48】食料品製造業の製造品出荷額等、事業所数、従業者数の推移（東北6県）

製造品出荷額等(実数)の推移

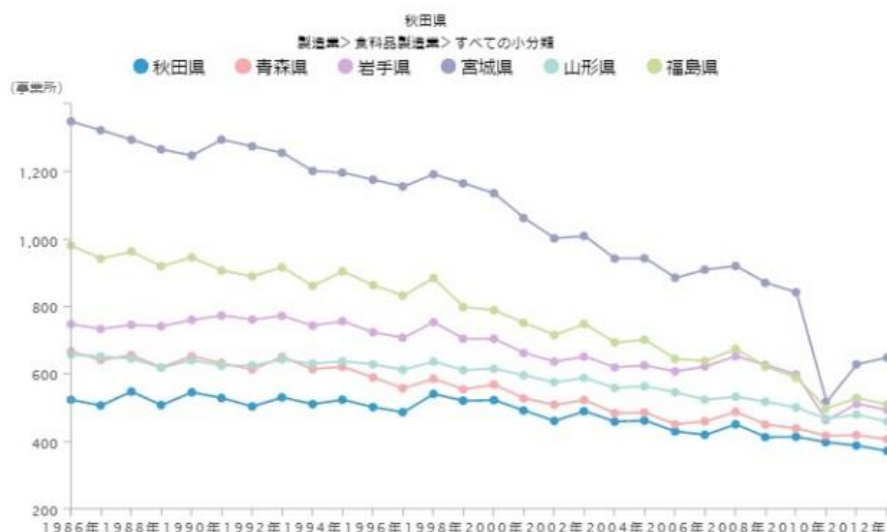


「産業構造マップ／製造業の比較／時系列グラフで分析／食料品製造業」



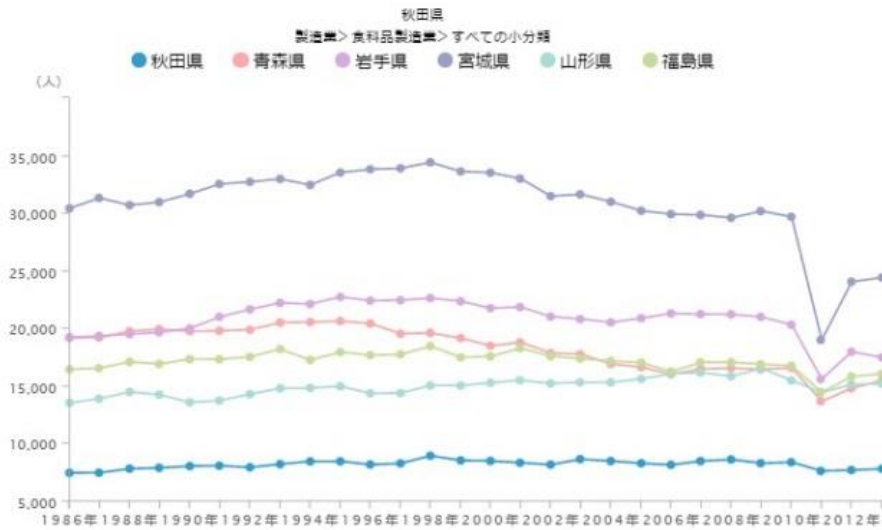
「産業構造マップ／製造業出荷額等／グラフで分析／食料品製造業」

事業所数(実数)の推移



「産業構造マップ／製造業の比較／時系列グラフで分析／食料品製造業」

常用従業者数(実数)の推移



「産業構造マップ／製造業の比較／時系列グラフで分析／食料品製造業」

「工業統計調査」等により産業小分類別のデータを見ると、本県の食料品産業の製造品出荷額等における他県との大きな差の要因が浮かび上がる。

一つは、水産食料品の出荷額が本県は著しく少ない点である。二つ目は、畜産食料品の出荷額が少ないという点である。これは、地理的要因による水産業の漁獲量や農業の稲作への偏重等、本県の第1次産業の構造を反映している。また、山形県と比較すると「野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業」や「パン・菓子製造業」の出荷額の違いが大きく、農産物等の高付加価値化で本県が遅れを取っていること等が要因として挙げられる。

本県では既に米偏重の農業構造の転換に向け、えだまめやトマト等の園芸メガ団地整備による産地化を図っているが、同時に生産から加工、最終商品の開発までのあらゆる段階で、高付加価値化を推進していくことが重要である。

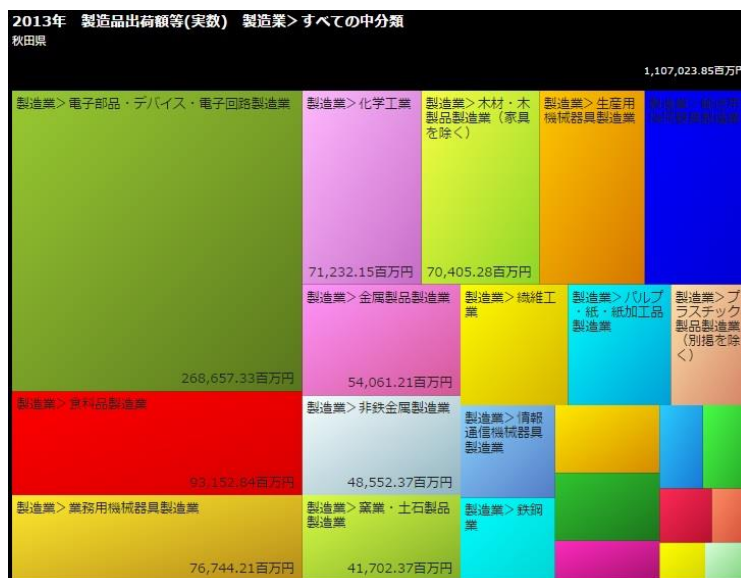
食料品製造業は、前述のとおり*影響力係数の高い産業であり、本県全体の産業振興においても重要な位置を占めている。

* 影響力係数については 19 ページを参照

(3) 電子部品・デバイス・電子回路製造業

本県の製造業の中では、製造品出荷額等と従業者数のシェアが最も高くなっている。特に製造品出荷額等では24.2%と突出しており、県内製造業のリーディング産業となっている。事業所の立地状況を見ると、にかほ市に16事業所、由利本荘市に14事業所と、本荘・由利地域を中心に集積している。

【図表49】秋田県製造業の製造品出荷額等の産業中分類別構成



「産業構造マップ／製造業の構造／製造品出荷額等で表示する」

【図表50】従業者数の推移（製造業産業中分類の上位3業種）

常用従業者数(実数)の推移



「産業構造マップ／製造業の構造／従業者数で表示する／推移を見る」

2014年のデータを基に、当該産業を含む電気機械3業種の生産性を分析・比較すると、電気機械、情報通信機械は、全国に比べて付加価値生産性が4割以下と低くなっているが、電子部品・デバイスは、全国の8割弱の水準となっている。

生産性を表す各指標を見ると、売上高付加価値率については3業種間に大きな違いはないが、一人当たり売上高は電気機械と情報通信機械は低く、これは、労働分配率が高いという労働集約型の特徴を示している。

電子部品・デバイス・電子回路製造業は、製造品出荷額等、従業者数の県内シェアの高さだけでなく、その高い生産性からも県内製造業の主力産業といえる。今後は、設備投資や生産工程の改善等によって、更なる生産性向上を図ることが重要となってくる。

【図表 5 1】

区分	電気機械	情報通信機械	電子部品・デバイス
全国	11,958	14,510	13,198
秋田県	4,350	5,524	10,508
秋田県/全国	36.4%	38.1%	79.6%

	売上高付加価値率	一人当たり売上高 (千円)	付加価値生産性 (千円/人)
電気機械	43%	12,812	5,524
情報通信機械	41%	10,611	4,350
電子部品・デバイス	43%	24,223	10,508

※ 付加価値生産性＝売上高付加価値率×1人当たり売上高

「産業構造マップ/製造業の構造」のデータを用いて作成